

<公開授業①>

芦北町立佐敷中学校 2年1組 単元名 武道「空手道」

後藤 英治 教諭

<公開授業②>

水俣市立緑東中学校 2年生 単元名 保健（健康な生活と疾病の予防）「生活習慣病とその予防」

田崎 賢治 教諭 本田 瑞貴 養護助教諭

質疑応答①

Q (保健) 学習構想案作成のポイントと、これまでの指導案との違い

A 単元終了時の姿を設定し、単元最初に伝えることで、目標「家族の健康リーダーになろう」を生徒と教師で十分共有できた。

質疑応答②

Q (保健) 知識構成型ジグソー法、他の単元でどのように生かしたか

A どの授業でも生かせるが、資料の準備がとても大変。生徒の実態によって資料選定も難しい。今回はグラフ資料の読み取りをさせた。グラフだと生徒同士で話ができている。

質疑応答③

Q (保健) 女性の感染、遺伝小児がんなど先天性のがんについては、授業の中で生徒に教えたのか。

A がんは生活習慣が悪い人に発症するという偏見を持たないように指導した。文科省の資料で挙げられている原因3つ「生活習慣・遺伝・ウイルス細菌」を伝え、決して生活習慣病だけではないことを教えた。

質疑応答④

Q (保健) 学習形態の工夫でジグソー法を保健分野で実施されているが、生徒が慣れるまで大変だったと思う。4つの単元の中で、どこでどんな工夫をされたのか。

A ジグソー法は去年から取り組んだ。去年の反省は、エキスパート学習で知識を与えすぎて生徒はメモして持って帰るだけになった。今回は、グラフは生徒が読み取りや考えがしやすいことが分かった。以前は、エキスパート学習でA4の資料を4つ提示していたが、今回は生徒の実態に応じてA4に資料を3つ載せ、メモ欄をつくるなどの工夫を行った。

質疑応答⑤

Q (保健) 班編制について、エキスパート活動をする時に、班員にはリーダーや学力が高い生徒必要だと思うが、そうでない生徒が集まることもあるはず。班編制など工夫や留意点はあるか。

A 学級担任と話し合って班を作った。リーダーや話ができる生徒を軸に班編制を行った。もし苦手な生徒が集まった場合、一人一人がワークシートを使ってメモをしたり印をつけたりして資料を班に持って帰らせることを行った。発表の時は、周囲の生徒がアドバイスをするなど協力が見られた。教師は苦手な生徒が集まった班を中心に支援を行った。

質疑応答⑥

Q (保健)「家族の健康リーダーになる」が目標だったが、冬休みは、健康リーダーとしての課題は出す予定なのか。

A 授業が行われた土日に、家の人の反応がどうだったのか月曜日に「座談会」で聞く。
保健室で座談会を行った。家の人の反応はどうだったのか生徒に聞いた。「食べ過ぎはよくないと親に念を押して言ったけど、運動(SAP)をしているから大丈夫だと言われた。」「両親や姉に喫煙の話をしたが、依存性がありやめられないと言っていた。」「父に飲酒についてアドバイスしたが、酒がないと生きていけないと言われた。記憶がなくなるまで飲むから心配。」座談会を通して、家族に話すと予想外の反応が返ってくること、家族は「ストレス」によってこのような行動を起こすのではないかということ、言い続けることが大事だが話すタイミングを考えること、年末年始は祖父母などにも話したいという意見があった。
そして、まずは自分が気をつけること。冬休みは健康観察チェック表を実施するので、自分だけでなく家族の健康もチェックする欄を作りたい。

質疑応答⑦

Q (武道)「ICTの活用」では、3人組でタブレットを使用したとあるが、タブレットの活用法や注意事項を教えてほしい。

A タブレットは昨年度から導入し、全授業活用できるので、生徒が自分たちでスロー再生、比較動画なども行うことができるようになっている。
バレーボールの授業で、自分の動画を見て、「腰を低くしたのですが、動画で見ると、僕腰高いですね。」と言ったのがとても印象的であった。水泳など、全ての授業で活用したい。

質疑応答⑧

Q (武道) 3～6人組の活動を具体的に教えてほしい。

A 班編制では、これまでの授業で能力・リーダー性などを把握し、リーダー性のある生徒を必ず班員に入れて編成している。空手では、経験者を運動が苦手な女子の班に入れるなどの配慮をした。最初は2～3人で学習、後半は6人で班員を意識して練習、最後は発表会という流れで授業を行った。最終的には班で団結し、迫力のあるレベルの高い演舞ができた。発表会で保護者が感動するほどのレベルになっている。ぜひ他の学校でも参考にしてほしい。

質疑応答⑨

Q (武道) 単元の計画を見ると、団体練習では技能の評価がない。教え合いを中心に評価をしていると思うが、教え合うことで技能もかなり上達しているのでは。

A 空手の技能評価は学習指導要領に明記されていない。学習構想案では大まかに評価基準を網羅している。実際技能面も評価しているが、記録に残す評価は思考・判断等を優先した。

大変な中での発表だったと思うが、生徒たちの様子でよかったことが分かる。

(保健) 知識構成型ジグソー法は、各郡市で活用してほしい。特に保健では有効だと思われる。コミュニケーション能力を育てる授業形態。

保健の教える内容は、全部教科書に書いてある。我々は何を授業で行うのか。ジグソー法の学習では、学習目標に対して、生徒の意見を吸い上げながら、仲間とのつながりを持って自分たちの言葉で仲間と共有することが実生活に生きていくと思う。

ジグソー法で大事なところが、「目標」の下「本時の問い」である。今回の授業では、「がんの予防法を考えよう」である。このやり方で 4 グループに分かれ、エキスパート学習をしても、最後のクロストークでは、全員同じ結論になり、報告会・資料の読み合い会になってしまう。

話の聞き方がすばらしい。ノー原稿でみんなの様子を見ながら発表できる力をつけたい。

よって、本時の問いの例として、「こんな生活をしていた A は 15 年後にがんになります。A に対して、どんなアドバイスをしますか？」→様々なまとめが表れるのでは。

今回、エキスパート学習で詳しい資料を用意されていたが、資料はざっくりでいい。完璧な資料を用意すると、生徒は限定された情報しか得ない。例として、「6 班編制」で「タブレット、養護教諭、教科書、インターネットなどの資料、葛藤するような逆説の資料」そうすると、生徒が考える。最後に教師がまとめるなど。しかし、毎時間 6 つの資料を集めるのは大変なので、みんなで資料を集めるなどを行ってみては。

協議の柱「わかってできる保健体育の授業の工夫を通して、学んだことを実生活や実社会に生かしていくにはどうすればよいか」

(武道) 芦北町は、ミットの提供、A T が 1 校 2 名、夏休みは関東へ空手の研修に行くことができるなどを伺った、手厚い町からのサポートがあることを実感した。

空手の授業で学んだことを、体育大会、地域の祭りで実施しており、町からのサポートを町に返す取り組みができていることが分かった。

空手の 8 時間実施で、隊形・入場の仕方なども練習し、中だるみのない、生徒が一生懸命がんばる授業となっている。オリエンテーションでは、礼儀の大切さ・空手の意義などをしっかりと教え、空手は左右対称の動きなので体に良い運動であることなども含めて教えているので、休み時間などで友達ちに空手の技を使うなども起きない。

(武道) 協議の柱「わかってできる保健体育の授業の工夫を通して、学んだことを実生活や実社会に生かしていくにはどうすればよいか」は、分かっていないと生かせない、分かっているかを確認するために、単元の要所で(ワークシートに書いてある)問いを解かせる。「こんな生徒に、あなたはどんなアドバイスをするか」などの視点を与えた問いを解かせ、理解の状況を確認できる。そして次の授業につなげていく。そこでワークシートが大切。実生活に生かすために、体育特有の「仲間との関わり、考え方、態度」を、体育の授業を通して伸ばしていくことが社会で生かされる。空手はとても良いということを後藤先生から学んだ。

(保健) 実生活に生かすために、問いの工夫が重要であるとの話が多かった。問いによって学習課題や実生活でのアドバイスが変わる。この「問い」や「授業実践」を、みんなで共有することが大切。授業者が少しでも楽になるように。今回のジグソー法で、生徒の表現力がついたという話があった。担任の先生方もジグソー法と身についた表現力を学活で生かしており、他の授業も深まっている。また、養護教諭との連携で授業ができたことで、養護教諭が学校で取り組んでいる健康チェック表についての意識が変わったなど実生活につながった。

一安先生のジグソー法の話話を共有した。生徒に情報量を少なくして、色んなことを考えさせ、無限に答えがあるようにすることが大切だと思った。

協議の柱については、生徒の記憶に残すために、実際にやってみる、インパクト・思い出に残る授業をするなどの意見があった。

実生活に生かすことは難しい。例えば、食生活の学習をしたとしても、家を出るごはんはカップラーメンなどもあるはず。生徒だけの力ではできない。学校・家庭・地域で情報共有。

今回の発表会で、思いついたこと、成功体験、反省、考えたことなど

家族の健康について、家族に手紙を書くなど。医者が言うより我が子が言った方が聞くのでは。学習したことを実践に生かすことを繰り返す。

保健の授業での失敗。ジグソー法を実践したが、報告会になってしまった。エキスパート活動で集めた資料をまとめる時、持ち寄った情報を友だちに見せるだけになってしまった。授業ではルール作りが大切であることを学んだ。(資料を持って帰らず、メモして自分の言葉で伝えるなど) 最終的に自分の言葉で説明できるように、学習を積み重ねたい。(説明できることで初めて「分かった」といえる。)

心肺蘇生法など、身につけた知識を実生活に生かすように、身に付けた知識を生かす場面を。行事・地域・養護教諭などの活用を。

ジグソー法の資料集めの負担を減らすために、中体研の在り方を生かし、全郡市で資料のストックに取り組んでみては。「熊本スタイル」の構築。やりっ放しで終わらない。

体育の授業でもジグソー法をやってみたいと思った。マット運動で、試しに技のポイントをジグソー法で持ち寄って見たところ、思いもよらないわかりやすいポイントを生徒が見つけた。ソフトボールでは、運動が苦手な子でも楽しめるルールを考えさせたところ、グローブに当てたらアウトにするなど生徒でルールを持ち寄り、ゲームを行うことができた。(長距離走でタイムを縮めるための工夫を生徒で調べて持ち寄るなどできるのでは)

研究主題に沿って、実際に保健の授業を参観した者として、気づきを伝える。

今回の田崎先生の授業で、研究仮説・研究内容を意識した様々な手立てがあった。

導入では、前時の学習を振り返る問いをもとに、本時の学習にスムーズにつなげる工夫があった。

単元のゴールと本時のゴールを生徒と共有していた。生徒は学習の見通しを持って授業に取り組むことができたと思う。

学習形態の工夫として、ジグソー法を活用した学び合い、研究サブテーマ「一人一人が考えをもって、仲間と関わりながら取り組む学習」が仕組まれていた。提示された資料をもとに、生徒一人一人が生活習慣について、健康の保持増進の視点から自分なりの考えを持つことができた。積極的に資料を分析したり、気づきを伝えたりする姿が見られた。保健分野における「見かた」を働かせていた。

がんはどのように予防したらいいのか、真剣に学び合っていた。疾病等のリスク経営や生活の質の向上と関連付けながら考えるという、保健分野における「考えかた」を働かせていた。

本研究会が目指す、学習の在り方の一つの指標として、ジグソー法を活用することの効果や可能性の大きさを感ずることができたのではないか。ジグソー法を使えば、すぐに生徒が主体的に学ぶ授業になるわけではない。その土台となる日頃の取り組みや学級経営の充実が欠かせない。今回取り組んだ学級は、特別な配慮が必要な生徒が多くおり、学力も厳しい状況であった。そのような中、生徒が生き生きと学び合う姿が見られたということは、緑東中の先生方が一体となってよりよい集団作り・授業改善に取り組んだ成果だと考える。学級経営と授業改善の両輪で学力向上を図る。授業改善の手立てとして活用したジグソー法は、よりよい学級経営にもつながっている。今回の授業研究会で、学級経営と授業改善の両輪で進めることの重要性を再認識した。

学習したことを実生活に生かすことについて、特徴的だったのは養護教諭との連携。養護教諭の思いをもとに、単元のゴールを設定した。さらに日常生活を振り返ることができるよう、専門的な立場から資料を準備した。これらが生徒の心を動かし、自分だけでなく家族の健康を考えることにつながったのだと考える。

改善点については、これまでの生活経験から、ストレスを溜めないほうがいい、運動不足は良くないなど、なんとなく分かっている生徒は多い。そのことをもとに、友人や家族などに、健康について伝えるなど実践している生徒もいると思われる。自分の思いや考えを伝えるとき、説得力があるようにするためには、根拠が必要である、その根拠こそ習得した知識だと考える。

今回、「ストレスを発散する」という発表があった。しかし、これががん予防になることについての根拠は述べていない。そこを教師が問いただすことで深い学びになるのでは。

生徒に問いを持たせる、生徒の考えをつなぐ、つまり教師が積極的にコーディネートすることが授業となる。「教師のコーディネート」という視点でも研究を深め、実践につなげていけたらと考える。

お願いしたいことは、自分の命を守る行動、自分の大切な人の命を守る行動を浸透させてください。今回の生活習慣病の予防学習も、生徒はまさに命を守るための学びをしたと思う。また、家族の健康リーダーとして、家族に働きかけをした生徒は、大切な人の命を守る行動を実践したのである。

熊本の全ての生徒が、学ぶ意味を問いながら能動的に学ぶ力を身につけることを目指す。生徒一人一人に、学ぶ意味、学んだ意味を実感させるためにも、先生方からも「命を守る学びができたんだよ」を伝えていただければと思う。このことが、次の学びの意欲向上につながる。

○空手と全体的な気づきと感想

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組み」興味関心を持つという点で、A Tが身近にいる環境が素晴らしい。粘り強く学習に取り組む手立てとして、「芦北初段」を通した課題解決をしていく学習内容が、単元のゴールをイメージしやすかった。I C Tの活用で、A Tの模範演舞をタブレットに入れていつでも見ることができる工夫があった。タブレットでの動画撮影は、できばえを確認できる、課題を確認することができる。対話的な学習で、他人に根拠を伝えることができる。今後タブレットは各郡市で充実していくと思うので積極的に活用してほしい。

○改善点

学習構想案作成で四苦八苦されていると思う。単元の目標・評価基準から指導計画を作成するが、展開と結びついていないことがある。めあて・評価の整合性がない、単元計画の評価と本時の評価が違うなど今回は思考・判断・表現の評価だったので、「模範となる動きや、自分・仲間の動きを見て、できばえを仲間に伝える」ことをめあてにすることが必要かと考える。そのための授業づくりの視点として、単元の評価基準を把握したうえで授業づくりをしていけばと思う。

○空手道について

学習指導要領では、「柔道・剣道・相撲に加えて学習することができる」ということで、学校や地域の特別な事情があることで空手ができる。特別な事情がなければ、基本的に3つの種目をしたうえで空手を履修することができると考えなければならない。また、実施するには、施設・環境・指導者・教師の指導・評価の5つの条件がそろわなければならない。芦北町の空手研修など、旅費込みの研修などで研鑽を積んでほしい。剣道は専門で指導できる先生が県内4割ほどしかいない。剣道協会が剣道の普及をしたいという話も出ている。地域の剣道指導者も活用できる。

○授業づくりについて

評価基準は全ての例示が出されている。例えば、1学年・2学年の授業数で、「知識」「思考・判断・表現」などの評価基準のうち、これはここの授業で…と発達段階に応じて計画的に評価するところを仕組んでいく。他の領域でも同様。

空手の技能の評価基準は「突き・蹴り・受けの攻防を展開するための、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技ができる」という表現である。武道は、3種目とも「基本となる動作」と「相手の動きに応じた基本動作」で構成されており、空手を実施していくのであれば、この評価基準と同様に構成することが必要である。

○評価について

知識の評価は期末テストだけでなく授業で評価することが大切。評価は生徒の学習改善につながり、教師の授業改善につながるものである。後から評価しても、評価の大切さが薄らいでしまう。自分の指導を改善するためにも評価をしていく。

○カリキュラムマネジメントについて

養護教諭との連携・保護者との協力・情報の発信・地域との連携などは効果があるので活用する。ジグソー法の資料は、来年度には各郡市で揃っていくのでは。来年度は新学習指導要領の完全実施。